



国立水俣病総合研究センター（国水研）広報誌

とんとん峠

本号の特集では国水研の国際的な水銀研究振興への取り組みとして一月に開催した「※NIMDフォーラム2012」の様子を紹介します。とんとん峠を御覧になって頂き、少しでも国水研の活動を知って頂けたら幸いです。

今回のNIMDフォーラムでは、スロベニア共和国の国立ジョゼフ・シユテファン研究所をはじめとする各国の研究員を招き、水銀のヒトの健康や環境への影響に関する研究成果を紹介しました。さらに今回は水俣市との共催で行われ、一日目は水俣市と水俣市立資料館の紹介を行い、二日目のスタディー・ビジットでは水俣病に関する現場見学や語り部講話などを実施しました。このように、当センターではNIMDフォーラムを通じて水銀に関する様々な研究成果や水俣の歴史、現状の紹介を行い、今後の水銀研究をより推進してまいります。

32号
(2012.03)



目次

● 特集

『NIMDフォーラム
2012』

110-111

● 国水研の動き（十二月～二月）

● 国水研からのお知らせ

● 健康メモ

● 編集後記

● アクセスマップ

※ NIMD（国立水俣病総合研究センターの英文名である National Institute for Minamata Disease の略）

●特集

『NIMDFォーラム 二〇一三』

国際・総合研究部 坂本 峰至

国水研は、一九九七年以降、国内外の専門家を招へいし、水銀に関する最新の研究発表と意見交換を行う国際フォーラムであるNIMDFォーラムを開催しています。二〇〇九年のフォーラムから同時通訳システムを導入し、一般の方でも参加してもらえようになり、研究者以外の参加者も増えてきています。

今回のNIMDFォーラムは、スロベニア共和国の国立ジョセフ・シユテファン研究所の研究員を中心に招き、一月二十六日に「水銀の健康や環境への影響に関する現在の研究」というテーマで行われました。スロベニア共和国のイドリヤ町は、



会場の様子

かつて世界第2位の生産量を誇る水銀採掘で繁栄しましたが、すでに鉱山は閉鎖されていますが、現在でも鉱山や周辺地域は水銀による環境汚染の問題を抱えています。水俣市も同様に水銀に向き合ってきた歴史があります。両都市は水銀に関する博物館を有していて、昨年には水俣市長とイドリヤ町長がお互いの都市や博物館を訪問し、友好な関係にあります。

フォーラムのセッションは四つに分かれて行われました。第一のセッションではスロベニア・イドリヤ

町と水俣市のそれぞれの紹介を兼ねて行われました。スロベニアからは、スロベニアの歴史、自然、イドリヤ水銀鉱山の歴史や新たな街の取り組みが紹介されました。水俣市からは、水俣市の歴史と環境モデル都市としての取り組みが紹介されました。



発表中のイドリヤ博物館のダルコ・ビレロ

第二のセッションでは旧イドリヤ水銀鉱山周辺から河川への水銀分散と現在の水俣湾における生け簀を使った環境評価に関する研究、第三のセッションではスロベニ

アにおける環境と人のモニタリングとインドネシア調査に関する研究、第四のセッションではヒトへの水銀の曝露評価とその影響に関する研究、それぞれのサブテーマに関する発表が行われました。

発表は、スロベニアから六名、韓国二名、スペイン一名、国水研三名で行われました。水俣市役所、鹿児島大学、一般市民等を含めて約六十名の参加者がありました。

各発表の後にはディスカッションの時間が設けられ、会場の参加者や研究者から発表内容などについての質問や意見が述べられ、活発な意見交換が行われました。

スロベニアと同じく、世界最大規模のアルマデン水銀鉱山を抱えていたスペインからは、主に鉱山労働者の健康被害と健康管理についての発表が行われました。スロベニア、スペイン、インドネシアは金属水銀による汚染で、韓国や日本の研究は



発表者に質問を行う、スペインのパブロ・ヒグレアス氏

メチル水銀による環境汚染と魚介類を介しての人へのメチル水銀の曝露とは異なったタイプの水銀に関する興味深い発表が聞けました。今回のNIMDフォーラムはお互いの資料館同士の交流も兼ねて水俣市との共催で開催され、スターイー・ビジットは水俣市の企画で、NIMDフォーラムの翌日に、坂本

水俣病資料館長の案内で、九名の海外研究者が参加しました。最初に海外の研究者に水俣病の歴史を知ってもらうために百間排水口、親水護岸、水俣病資料館を訪れました。水俣病資料館では語り部の杉本雄さんの話に皆さん熱心に耳を傾け、ミレーナ・ホーバットさんは未だに完全に解決していない水俣病問題に驚き心を痛めていました。更に、豊かな水俣の自然や文化に親しんでもらうために、村丸こと生活博物館（寒川地区）の見学を行い、愛林館の沢畑館長から棚田を守る活動を中心に説明を受け、短い間でしたが寒川水源等の自然にも親しんでもらいました。帰りには、参加者全員からNIMDフォーラムとスターイー・ビジットが有意義であったと感謝されました。また、新水俣駅には宮本水俣市長が見送りに来られて一緒に記念写真を撮り、今後の再会を約束して



寒川水源にて



水俣病資料館にて

帰国の途につかれました。

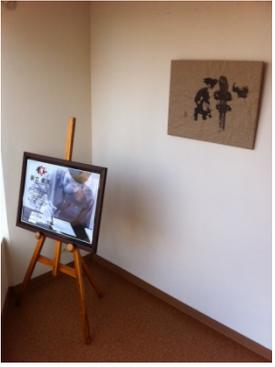
国水研の動き

- 平成二十三年十一月〜平成二十四年二月
- 十月三十一日〜十一月一日
JICA研修（パナマ）
- 十一月四日
JICA研修
（マレーシア・フィリピン・ベトナム）
- 十一月二十五日
鹿児島大学・中国東北大学 一行来所
- 十一月二十九日
筑波大学 一行来所
- 十二月八日
JICA研修
（アルゼンチン・ポリビア他六カ国）
- 十二月二十四日
北九州市立大学 一行来所（情報センター）
- 一月十八日
横光克彦 環境副大臣水俣訪問
- 一月二十一日
第二十五回健康セミナー
- 一月二十六日〜二十七日
NIMDフォーラム（情報センター）
- 一月二十九日
細野豪志 環境大臣水俣訪問
- 二月八日
JICA研修（ベトナム・中国他五ヶ国）
- 二月十三日・十四日・十六日
水俣病経験の普及啓発セミナー
（中国・フィリピン・モンゴル他五カ国）
- 二月十六日
都留文科大学 一行来所

お知らせ

★むしかみラボ Atelier から 展示物のご案内♪

社会科学室が中心市街地の調査研究拠点としてまちなかに開設したむしかみラボ Atelier の一階では展示スペースを設けています。これまで、吉永理巴子さんのリグラス、久保山雅子さんの再生キャンドル、坂田恵美さんの切り絵、新立航大さんによる手づくりの子供服などを展示してきました。三月からは、紙漉き職人・金刺潤平さんの作品を展示しています。六ツ角を通りかかったときは、のぞいてみてください。なお、Atelier は、随時、展示作品を受け付けています。



墨人・新立航大さんの「絆」

★第二十五回健康セミナー を開催しました♪

一月二十一日(土)に水俣病情報センターで第二十五回健康セミナーを開催しました。今回は、「骨粗鬆症その予防と治療」―寝たきりにならないために―というテーマで熊本大学大学院生命科学研部運動骨格病態学分野教授水田博志先生にご講演いただきました。

骨粗鬆症の患者は高齢女性を中心に増加しており、推計で一〇〇万人に上るといわれています。ホルモンのバランスが変化する更年期以降の女性に多く、六十代女性の三人に一人、七十代女性の二人に一人が骨粗鬆症の可能性があります。骨粗鬆症は骨の形成と吸収のバランスが崩れた時に起こり、初期段階では自覚症状はなく、骨折して初めて気付くケースが多いとのことでした。今回のセミナーには一二四名の参加があり、骨粗鬆症の専門家である先生からわかりやすく説明していただきました。また会場からの質問応答が活発に行われました。

♥健康メモ

脳磁計(MEG)は脳の健康状態を調べる最先端の計測装置で、全国でも四十〜五十台ほどしか導入されていません。

脳の中には多くの神経細胞があります。この神経細胞の中を電気が流れることで脳は活動しており、細胞の中に電気が流れると周囲に磁場が発生します。MEGは、この磁場を計測します。MEGによって得られる情報は脳波計の数十倍の情報量があると考えられています。脳の中には音を聞く時に活動する細胞、感じる時に活動する細胞、運動をする時に活動する細胞など、働きの異なる多くの細胞があり、脳の様々な場所に分布しています。MEG検査により、ミリ単位で脳のどこの場所が活動しているかが解かり、千分の一秒単位で脳の中の詳細な情報の流れを知ることが出来ます。物忘れが多くなったり、同じ話を何度もしたり、今まで上手に使用していた道具がうまく使えなくなったり、身近な人の名前が思い出せなくなったり、集中力が低下したりした場合は、最先端のMEG検査による脳のチェックをおすすめします。

現在、国水研では水俣病の脳機能の評価の研究の一環として、無料で脳磁計検査を実施しています。検査を希望される方は、是非、国水研までご連絡下さい。

編集後記 本日のとんとん峠

今年度のとんとん峠も本号で最後になります。最後までお読みいただきありがとうございます。

私は去年の五月に東京から国水研へ赴任して早十ヶ月、今では「かさこ」を「がらかぶ」と自然に口にできるほどこの土地に馴染めました。このように、国水研は私のような出組から、水俣で長年研究している研究者など多様なメンバーが一丸となって仕事をしています。来年度も内容盛りだくさんでとんとん峠をお届けしますので、ぜひご覧いただき、国水研のことを知っていただければ幸いです。

EX-メール mai@nimd.go.jp

アクセスマップ

